

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3771700899
法人名	医療法人社団 愛有会
事業所名	グループホームオリーブ苑
所在地	香川県三豊市詫間町詫間679-40 (電話) 0875-56-5811

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年9月12日	評価決定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】(19年 8月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年 6月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤 6人、非常勤 1人、常勤換算	6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,050円			

(4) 利用者の概要(8月 8日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.5歳	最低	76歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩崎病院 小林歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、利用者と一緒に作った季節感のある飾り物がある等、くつろいで生活できる雰囲気の中で、運営理念である「愛情・やさしさ・尊重」を実践していることが、利用者の笑顔や落ち着いた様子からうかがえる。管理栄養士による献立や、毎日通常のバイタル測定の上に、血中酸素飽和度を測定するなど、健康管理に細かな配慮がみられる。また、家族へは毎月個別に便りを送付する等、報告を重視している。運営推進会議は、地域との交流や緊急時の応援が依頼できるようになった等、活発に運営されており、地域に根ざし、利用者が安心して生活できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念の啓発は、運営推進会議を通し、また、地域の活動に積極的に参加することにより広めている。介護計画の立案は、職員全員参加の会議を月に1回設け、話し合うこととした。緊急時の手当ては研修を行うなど、努力している。地域の人たちとの交流も広がり始めており、改善課題について職員全員で話し合い、前向きに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員全員での取り組みを行った。話し合っていく過程の中で、知識や工夫する学びがあり、また、ホーム一丸となったことにより、職員間の信頼関係が高まっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、健康管理の方法や一人ひとりにあったケアの取り組みについて報告し、理解の深まりを得た。地域の方から訪問希望があり、今後の活動に結びつく機会となっている。災害対策に対する助言をいただき、地域の方の温かい支援がさらに広がっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者ごとに便りを作成する等、ホームでの生活状況を理解していただき、少しでも家族の不安が軽減できるよう努力している。また、玄関に「ご意見箱」を設置したり、運営推進会議にも参加していただく等、家族からの意見をいただける機会を増やし、また、無記名のアンケートを実施する等、本人や家族の意見をケアに反映させる取り組みにも努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常の散歩では、地域の方から声をかけられたり、地域の文化祭への出展や参加を自治会から案内をいただく等、ホームに対する理解が深まっている。また、現在、ホームからも、訪問希望の団体等へ積極的に交流を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛情・やさしさ・尊重」を理念とし、ホーム内にも掲示して、常に意識してケアするようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、日ごろのサービスを理念と照らし合わせ、適さないと判断したときは、職員に具体的に分かりやすく説明している。これにより職員の中に理念が浸透している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会から、地域の文化祭への出展や見学などの案内を受けたり、散歩をしていると近隣の方が声をかけてくれる。また、ホームからも積極的に交流を深めている。	○	自治会やさまざまな地域のボランティア団体との交流はあるが、老人会、婦人会等へも働きかけ、利用者と地域の方との交流が、さらに広がるような取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行っている。改善項目への取り組みは、評価の意義を理解するだけでなく、意欲の向上や、知識の習得、また、職員のチームワークの強化にもつながっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、ホーム利用者との交流の持ち方について話し合ったことから、今後の交流に発展している。災害対策について助言をいただき、地域の協力がさらに広がる予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の参加があるだけでなく、会議の持ち方について、サービスの質の向上につながるよう積極的に指導、助言を受けている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に、各家族へ写真つきの便りを発行し、日々の活動の様子や金銭状況、ホーム内の職員異動等について報告している。また、健康状態の変化等、緊急の場合には電話などで、その都度報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に「ご意見箱」を設置している。また、面会時には、状況の報告とともに、意見が言えるような雰囲気を作り、伺うように努めている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最小限にしている。異動があった場合は、利用者に影響がないように、新職員が早く雰囲気慣れ、一人ひとりの把握できるよう全職員で努力している。家族へは便りで報告している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協議会主催の研修には、積極的に参加している。その他の研修は自主参加であるが、参加希望が多い。研修後は内容を報告し、全員の質の向上に活かしている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修等の機会に同業者と交流をもち、情報交換を行っている。研修終了後もホームで困っている事項などについて、電話などで情報交換をし、サービスの向上に活かしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学をしていただき、入居後も本人の状況により、家族に面会や外泊、外出を相談しながら取り入れ、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者はしきたりや行事、ことわざ等の知識が豊富で、教えられることが度々である。また、職員を笑わせる冗談の好きな利用者もあり、互いに支えあった関係である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	図書館へ行きたい希望の利用者がいたため、市が発行しているタクシー券を使って、一緒に本を借りに行くなど、希望や意向に沿った支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に本人から意向を聞いたり、家族からも要望を伺ったうえで、職員全員出席の会議にて介護計画を立案している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度、見直しを行っている。本人の状態に変化があったり、本人や家族の希望があった場合は、介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居宅サービスであるホームの利用者は、市が発行するタクシー券を利用できるため、券を利用して職員が付き添い、外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望としている。特になければ、近隣のホームの協力病院としているが、この場合も必ず了解をいただいている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合や終末期の方針を確認している。現時点では対象者はいないが、ターミナルケアの希望者がいるため、かかりつけ医や職員全員で話し合い、具体的には今後進めていく予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには一人ひとりに合った言葉を選び、自尊心を傷つけることのないよう対応している。また、記録等の保管や個人の情報に関することは、適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	さまざまな活動への参加は、本人の意思を尊重している。午睡などは、本人の希望により支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年々、できることが少なくなりつつあるが、少しでもできることは、機会が設けられるよう支援している。下膳やテーブル拭きなどは、毎食後、利用者が自発的に行っている。また、食前に今日の献立を交代で読み上げることが、楽しみの一つになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前と午後の入浴希望者がそれぞれいるため、利用者に合わせて支援している。開設当時より、重度化したため、福祉機器も導入し、安心して入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	字を書くのが得意な方、歌を歌うのが得意な方、計算をするのが早い方、読書が好きな方など、一人ひとりがさまざまな趣味を持たれており、楽しみにできるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	独居生活であった利用者が、飼い犬と一緒に入居されたため、体調や気分が良い日は、朝夕の散歩と一緒にしている。また、食事の買い出しに同行したり、花の水やりや日常的な外出、天気の良い日には近くの公園への外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路に面しているため、安全面に配慮して施錠している。	○	安全面への配慮は必要であるが、職員の体制や支援方法を検討することにより、鍵をかけないケアの実践は可能であると考えられる。工夫を出し合い、開錠への取り組みに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者とともに年2回の避難訓練や、消火訓練を実施している。また、運営推進会議での話し合いにより、地域の方の協力体制が広がり始めている。今後、さらに協力依頼を働きかけていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成している。食事摂取量は毎食後記録し、少ない人へは高カロリー食品の摂取を促すなど、配慮している。水分についても、食事中のお茶や牛乳、おやつ時の飲み物などを全量摂取できているかにより判断し、不足している人へは補給を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と職員が一緒に作成した季節の飾り物などを、適宜に飾り、掘りごたつのある畳の間で横になることができる等、くつろげる空間になっている。また、車いす利用者や座位時間が長く、足の疲れる方へは足を少し上げて休めるような、手作りの台を作る等、一人ひとりに合わせながら、共に居心地よく過ごせるような工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた道具を持ち込んだり、利用者の身体状況に合わせ、ベッドにしたり、畳にする等の配慮がなされている。	○	ホーム全体が整理整頓され居心地のよさを感じるが、居室においては、個々の馴染みのものや家族の写真を置くなど、さらに居室としての居心地のよさが感じられるよう、今後の取り組みに期待したい。